

令和5年度実績

献血くまもと



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



ジェーンズ邸

はじめに

県民の皆様には、日頃から献血に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。また、昨年度も多くの方々からの献血の御協力や温かい御支援により、輸血を必要とする患者さんの尊い命を救うことができました。改めて感謝申し上げます。

さて、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類となり、1年が経過しました。昨年度は、献血バスの受入中止に伴う影響等は少なくなりましたが、少子化の進展等により16歳から69歳までの献血可能人口が減少する中で、献血者の確保は年々難しくなっています。特に、若年層の献血者数は減少傾向が続いており、将来にわたって安定的に血液を確保するためには、その対策が喫緊の課題です。

県では、令和6年度から令和11年度までの医療提供体制整備の方向性等を示す「第8次熊本県保健医療計画」に基づき、熊本県赤十字血液センターをはじめとする関係機関と連携しながら、血液の確保に関する各施策に取り組んで参ります。

献血で集められた血液は、がんや白血病等の病気の治療等に使われ、たくさんの方々の命を救っています。輸血に使用する血液は、まだ人工的に造ることができず、長期保存することもできません。献血は、身近にできる命をつなぐボランティアであり、血液製剤を安定的に供給できる地域社会づくりを進めていくためには、多くの県民の皆様の御協力が不可欠です。

引き続き、関係機関と連携を図りながら、輸血用血液の確保とともに、血液製剤の安定供給に努め、県民の皆様の命と健康を守って参りますので、今後とも御協力を宜しくお願い致します。

令和6年4月16日就任

熊本県知事

木村 敬



ごあいさつ

平素は、皆様へ献血のご協力をいただき大変感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響で献血者は減少し、医療施設での輸血使用量も一過性に減少しましたが、2類から5類感染症に変更後は、輸血使用量が徐々に増え、安定供給が懸念される状態になることがありました。しかしながら、献血者の皆様、医療機関の皆様、そして血液センター職員との密な連携により、新型コロナウイルス感染症を乗り越えることができました。血液製剤は有限な資源で、種類によって有効期限も違い、赤血球製剤は28日間、血小板製剤は4日間、血漿製剤は1年間です。また輸血を行う時には、血液型なども合わせないとけませんので、皆様から献血して頂いた貴重な血液を過不足なくお届けすることは、そう簡単なことではありません。今後もさらに効率的な献血・輸血体制を構築していきたいと思っています。

さて、全国で献血Web会員サービス『ラブラッド』のアプリが導入されて1年以上経過しました。熊本県でもあらかじめ日時を予約して献血に来られる方が多くなり、混雑が解消され、献血での待ち時間を短縮できるようになりました。アプリでは献血可能であるかの問診に事前に回答できるようになり、頻回に献血をしていただく方には大変便利になりました。今後もより一層予約率を向上させて、献血待ち時間の短縮と血液製剤の安定供給に寄与していきたいと思っています。献血ができる年齢は、16歳から69歳までですが、現在20～30歳代の献血率が低下しており、ますます少子高齢化が進みますので、血液製剤の需要と供給のバランスが崩れていくことが懸念されます。今後はリアルタイムに、必要な血液製剤の量を献血者の皆様にお伝えし、献血をお願いすることで、輸血を必要とする患者さんに遅れることなく届けられていることを、献血者と患者さんがより身近に理解できるよう、データで示すことも重要な課題だと思っています。多くの患者さんの命を守るためには、引き続き多くの皆様の継続的な献血が必要となりますので、より一層のご支援とご協力を賜りますことをお願い申し上げます。



令和6年4月1日
熊本県赤十字血液センター
所長 米村 雄士

CONTENTS

ごあいさつ	1	献血状況	10
献血の成り立ち	2	献血功労表彰	14
熊本の献血のあゆみ	3	供給状況	15
献血から輸血まで	4	医薬情報活動	16
献血方法別の採血基準	6	熊本県学生献血推進協議会	16
献血の流れ	7	献血推進・広報活動	16
献血Web会員サービス「ラブラッド」	8	ありがとうのメッセージ	18
検査成績のお知らせ	9	骨髄バンク事業	19

献血の成り立ち

我が国における血液事業は、戦後まもなく、民間、日本赤十字社及び公立の血液銀行によって始められましたが、その大部分は民間製薬会社による売血に依存したものであったため、「黄色い血液」と呼ばれる輸血用血液の品質低下や輸血後肝炎の多発などの弊害が増加し、大きな社会問題となりました。

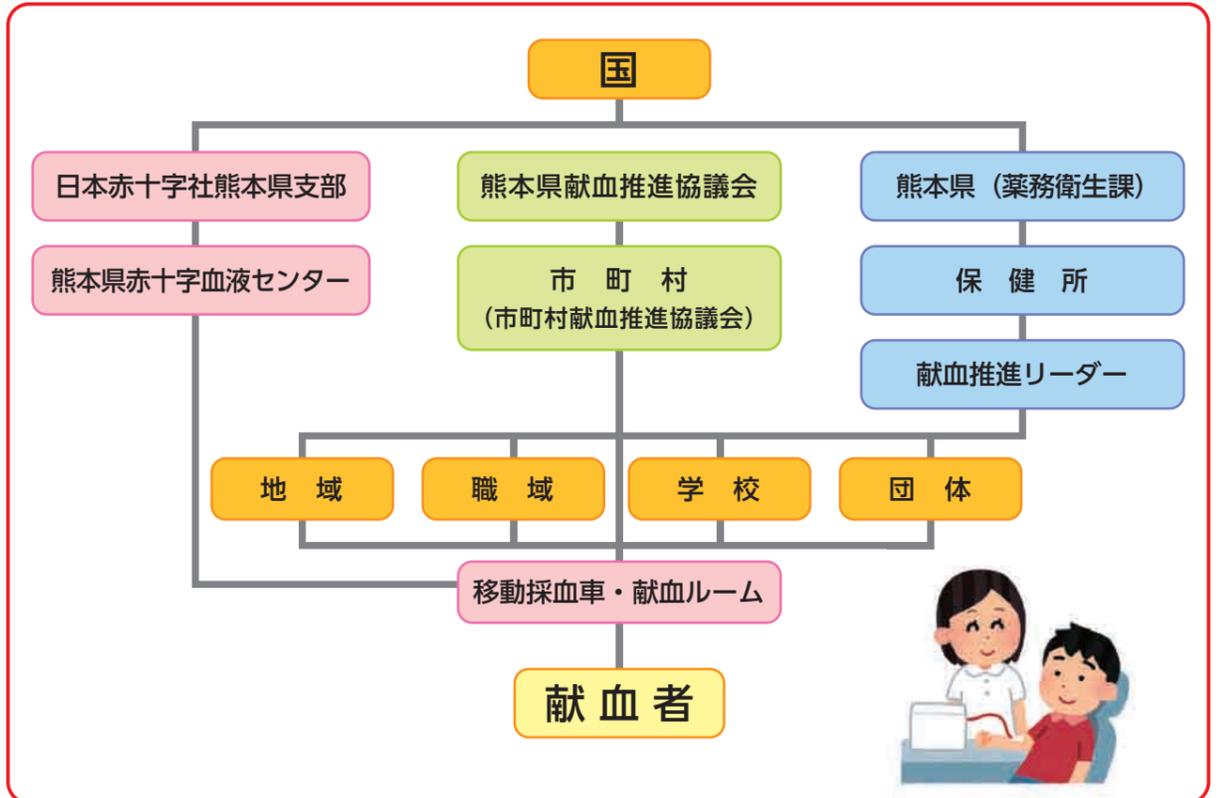
このため国は、昭和39年8月21日に、「献血の推進について」の閣議決定を行い、献血は、国、地方公共団体及び日本赤十字社の三者が一体となって推進することが明確になりました。これにより、献血思想の普及・献血者の確保・組織化については、国及び地方公共団体が中心となって行い、献血の受け入れから検査・製剤・供給までを赤十字社が行う体制が整えられ、すべての輸血用血液は、献血により確保されることとなりました。

また、輸入された血漿分画製剤により多くの血友病患者がエイズに感染するという不幸な歴史を教訓として、血液製剤の安定供給等をめざす「国内自給の確保」を基本理念とした「安全な血液製剤の安定供給の確保に関する法律」が平成14年7月31日に公布され、平成15年7月30日から施行されました。

国及び地方公共団体の責任を明確化

血液製剤の安全性の向上や安定供給の基本方針を国が定め、国内自給に向けた献血に対する国民への理解促進、ならびに血液製剤の使用適正化の推進は国の責務であるとされました。また、国は毎年度ごとに、必要な献血血液の確保目標量や献血推進計画を策定することとなり、各都道府県・市町村も含めて、献血推進の主体が行政にあることが明確になりました。

献血推進機構



熊本の献血のあゆみ (人)

年度	200mL献血	400mL献血	成分献血	合計
539	998			998
40	11,919			11,919
41	21,210			21,210
42	35,711			35,711
43	38,535			38,535
44	38,644			38,644
45	39,241			39,241
46	40,641			40,641
47	44,926			44,926
48	49,903			49,903
49	56,625			56,625
50	57,965			57,965
51	74,001			74,001
52	88,544			88,544
53	115,056			115,056
54	133,290			133,290
55	154,650			154,650
56	172,863			172,863
57	176,970			176,970
58	176,687			176,687
59	197,177			197,177
60	192,075			192,075
61	148,881	33,852	454	183,187
62	136,414	36,299	1,789	174,502
63	135,110	38,961	2,252	176,323
平成元	129,738	39,454	3,327	172,519
2	116,208	40,128	10,338	166,674
3	108,923	43,269	26,003	178,195
4	89,478	43,986	34,861	168,325
5	63,466	45,011	40,815	149,292
6	49,500	50,411	40,469	140,380
7	42,525	49,941	31,576	124,042
8	43,751	50,109	31,714	125,574
9	47,602	51,073	32,068	130,743
10	43,615	54,818	34,414	132,847
11	43,677	54,518	32,122	130,317
12	35,087	57,163	30,811	123,061
13	27,423	57,465	30,883	115,771
14	22,367	54,954	27,223	104,544
15	10,714	54,993	26,496	92,203
16	9,430	52,581	26,862	88,873
17	8,385	56,596	25,385	90,366
18	4,813	55,301	21,654	81,768
19	1,874	56,472	22,219	80,565
20	1,319	58,165	23,445	82,929
21	1,061	60,846	22,866	84,773
22	1,070	61,624	21,513	84,207
23	1,001	59,507	22,623	83,131
24	1,351	58,831	22,408	82,590
25	1,174	56,269	22,663	80,106
26	825	55,817	19,739	76,381
27	1,113	56,422	17,075	74,610
28	953	45,862	15,276	62,091
29	1,083	51,294	17,967	70,344
30	1,184	51,443	19,138	71,765
令和元	1,308	52,385	20,706	74,399
2	1,185	53,237	22,647	77,069
3	1,262	52,006	21,794	75,062
4	851	50,717	21,181	72,749
5	863	51,313	22,603	74,779
累計	3,254,215	1,953,093	867,379	6,074,687

年	推移
昭和39	献血についての閣議決定
40	熊本県献血推進協議会設置 熊本県赤十字血液センター開所 移動採血車しるはと号による献血開始 市町村献血推進協議会設置始まる
43	日赤熊本県支部・血液センター合同社屋新設
44	献血者10万人突破 水俣出張所開設
46	98全市町村に献血推進協議会設置完了
48	熊本県Rh(-)友の会発足
50	日赤熊本、現在地に新築移転
52	献血者50万人突破 血液検査サービス開始
54	献血率で日本一
56	献血者100万人突破
57	献血手帳の「供給欄」廃止
59	下通り献血ルーム設置
60	献血制度20周年記念熊本県民大会
61	400mL献血・成分献血の開始 献血者200万人突破 エイズ抗体検査開始
63	エイズ自己申告制度開始
平成元	日本血液事業学会を熊本市民会館で開催
2	市町村におけるオープン採血による成分献血の開始 第26回献血運動推進全国大会を県立劇場で開催
3	成分献血のための移動採血車の運行開始 熊本県骨髄データセンター設置
4	献血者300万人突破
5	下通り献血ルーム10周年記念イベント
6	献血制度30周年記念熊本県民大会
9	日赤熊本県支部・血液センター合同社屋現在地に新築 下通り献血ルーム献血者50万人突破 県庁献血ルーム「ハービット県庁」設置
11	献血可能年齢69歳へ引き上げ HTLV-1検査結果陽性の通知開始 NAT(核酸増幅検査)開始
12	献血者400万人突破 「ありがとう献血」熊本県民大会
14	県庁献血ルーム「ハービット県庁」閉館 「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」公布及び第16条(有料での採血等の禁止)施行
15	「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」の全面施行 輸血用血液製剤の選定と調査開始
16	下通り献血ルーム20周年記念イベント 献血受付の際の本人確認開始
17	下通り献血ルーム移転
18	献血手帳の磁気カード化 献血者健康被害救済制度開始
19	全血液製剤で保存前白血球除去開始 熊本県Rh(-)友の会解散 全血液製剤で初流血除去開始
20	九州ブロック血液センターの検査・製剤部門集約 検査サービス通知に糖尿病関連検査追加
21	献血者500万人突破
23	献血可能年齢の拡大及び血色素量下限値の引き上げ 問診事項の一部改正
24	全国7ブロック広域事業運営体制へ移行
26	血液事業情報システム全国一斉導入 個別NAT(核酸増幅検査)開始
27	血液センター開所50周年記念式典
29	血小板成分献血上乗血漿採血量の引き上げ 下通り献血ルーム移転(下通り献血ルームCOCOSAに名称変更)
30	献血受付における本人確認方法の厳格化 献血可能日の1年間の算定方法変更 下通り献血ルーム献血者100万人突破 献血推進・予約システム全国一斉導入
令和2	HEV NAT(核酸増幅検査)開始 健康診断基準の変更(血圧・脈拍・体温) 全血採血(移動採血車)指先穿刺による事前検査開始 がんの問診判断基準の変更 献血者顕彰規定の変更
令和3	全血採血(固定施設)指先穿刺による事前検査開始
令和4	ラブラッドアプリの導入 献血者600万人突破
令和5	赤血球製剤の有効期間が採血後21日から28日に変更 来場した全ての献血者の体重測定を開始

献血から輸血まで

熊本県では、1日平均200名の献血が必要とされています。

献血でいただいた血液は、九州ブロック血液センター（福岡県久留米市）で、赤血球・血漿・血小板に分離され、輸血の安全性を確保するための厳しい検査を行います。輸血用の血液は、各県にある血液センターから、医療機関へ届けられています。

現在、県内で必要とする殆どの血液が皆さまの献血によって確保されています。

献 血



移動採血車



日赤プラザ献血ルーム



下通り献血ルームCOCOSA



熊本県では
上記の場所で
献血できます



日本赤十字社九州ブロック血液センター（福岡県久留米市）



制剂部門

献血されたすべての血液は必要に応じて、いろいろな血液成分に分離され有効利用されます。



検査部門

献血されたすべての血液は、輸血用として安全かどうか厳しく検査されます。

安全な輸血のために必要な検査

- 血液型検査
ABO血液型検査、Rh血液型検査、不規則抗体検査、HLA検査（一部）
- 感染症検査
梅毒血清学的検査、B型肝炎ウイルス検査（HBs抗原、HBs抗体、HBe抗体）、C型肝炎ウイルス検査（HCV抗体）、エイズウイルス検査（HIV-1、2抗体）、HTLV-1抗体検査、ヒトパルボウイルスB19抗原検査
- 生化学検査（7項目）
- 血球計数検査（8項目）
- 核酸増幅検査
B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査、E型肝炎ウイルス検査、エイズウイルス検査

輸血用
血液製剤

原料血漿



熊本県赤十字血液センター

供給部門

輸血用血液製剤は血液センターで安全に保管管理し、医療機関へお届けします。



赤血球製剤

有効期間：採血後 28 日間



血漿製剤

有効期間：採血後 1 年間



血小板製剤

有効期間：採血後 4 日間

国内分画製剤メーカー

成分ごとに分けられた血液（血漿）の一部は、血漿分画製剤の原料（原料血漿）として血漿分画製剤メーカーへ配分されます。原料血漿はさらに様々な成分に精製され、20種類以上の血漿分画製剤となります。



免疫グロブリン製剤

免疫機能が低下した場合や重症感染症、ある種の神経疾患、川崎病などに使われます。

アルブミン製剤

やけどや出血性ショックなどに使われます。

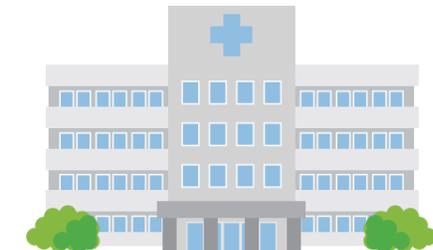
血液凝固第Ⅷ因子製剤

血友病などに使われます。

血漿分画製剤
(免疫グロブリン
製剤等)



医療機関



献血方法別の採血基準

献血にご協力いただく方の健康を考慮し、下記のような採血基準が設けられています。

献血方法別の採血基準

項目	全血献血		成分献血	
	200mL 献血	400mL 献血	血漿成分献血	血小板成分献血
1回献血量	200mL	400mL	600mL以下 (循環血液量の12%以内)	
年齢	16歳～69歳*	男性 17歳～69歳* 女性 18歳～69歳*	18歳～69歳*	男性 18歳～69歳* 女性 18歳～54歳
体重	男性 45kg以上 女性 40kg以上	男女とも 50kg以上	男性 45kg以上 女性 40kg以上	
最高血圧	90mmHg以上 180mmHg未満			
最低血圧	50mmHg以上 110mmHg未満			
脈拍	40回/分以上 100回/分以下			
体温	37.5℃未満			
血色素量 (ヘモグロビン濃度)	男性 12.5g/dL以上 女性 12.0g/dL以上	男性 13.0g/dL以上 女性 12.5g/dL以上	12.0g/dL以上 (赤血球指数が標準域にある女性 は11.5g/dL以上)	12.0g/dL以上
血小板数	—	—	—	15万/μL以上 60万/μL以下
1年に献血 できる回数 (1年は52週として換算)	男性 6回以内 女性 4回以内	男性 3回以内 女性 2回以内	血小板成分献血1回を2回分に換算して 血漿成分献血と合計で24回以内	
1年に献血できる 総献血量 (1年は52週として換算)	200mL献血と400mL献血を合わせて 男性 1,200mL以内 女性 800mL以内		—	—

※ 65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までの間に献血の経験がある方に限ります。

■各献血方法に共通する基準は次のとおりです。これらの項目に該当する場合は、ご本人の安全のために献血をご遠慮いただいています。

- 献血により悪化するおそれがある循環器系疾患、血液疾患、その他疾患にかかっている人。
- 健康状態が不良と認められる人。
- 妊娠していると認められる人。または過去6か月以内に妊娠していたと認められる人。



献血の間隔



献血の流れ

① 献血受付

「献血前にお読みください」及び「献血の同意説明書」の内容をご理解いただき、同意をされたうえでお申し込みいただけます。安全で責任ある献血をお願いするために身分証明書等の提示をお願いし、生体（指静脈）認証もしくは暗証番号で本人確認を行います。
※お申し込みの際の個人情報（住所・氏名など）は厳重に管理されており、外部に流出する恐れはありません。



② 事前問診

献血される方と輸血を受ける患者さん双方の安全を守るため、献血いただく方の健康状態を伺う質問に回答していただけます。



② 事前の問診（アプリの場合）

当日になるとラブラッドアプリの“事前の問診回答の開始”から予め事前問診に回答いただけます。

③ 問診

回答いただいた内容に基づき、医師による問診を行います。



④ ヘモグロビン濃度測定・血液型事前検査

ヘモグロビン濃度の測定と血液型の事前検査を行います。成分献血の場合は、血小板数の測定も併せて行います。



⑤ 採血

採血にかかる時間は、400mL献血は10～15分程度、成分献血は採血量に応じて40～90分程度かかります。
※採血針や採血バッグ等は一人ひとり新しいものを使用しています。



⑥ 休憩

献血後は十分に水分を補り、10分以上休憩していただけます。



⑦ 献血カード受取り

履歴を更新した献血カードをお渡しします。献血カードには次回献血可能日等が印字してあります。



⑦ 履歴の更新

アプリの方は、履歴・次回献血可能日ともに自動更新されます。



献血 Web 会員サービス「ラブラッド」



日本赤十字社は、平成 30 年 10 月に利用者の方へのサービス向上を目的に、複数回献血クラブ(平成 18 年開設)を献血 Web 会員サービス「ラブラッド」へとリニューアルしました。さらに、令和 4 年 9 月に「ラブラッド」アプリをリリースし、一層の献血予約の推進を図るとともに、「アプリ版献血カード」や「事前 Web 問診回答機能」の導入、「プレ会員」の登録等を開始しました。

献血予約

Webサイト・アプリから献血予約が可能(当日予約(3時間前)もできるので、お近くの献血会場を選択して、手軽に献血できます。
※献血会場によっては予約ができません。

事前問診回答

これまで献血会場でしかできなかった問診回答がWebサイト・アプリからできるようになりました。

血液検査の確認

ご自身の献血記録をいつでも確認することができます。

会員特典

ご協力いただいた献血種類に応じて、献血ポイントがたまりやすくなります。また献血予約することで予約ポイントも付与されます。それらはオリジナル記念品と交換が可能です。その他、イベントやキャンペーン情報のご案内や、便利な機能を多数備えています。

会員数

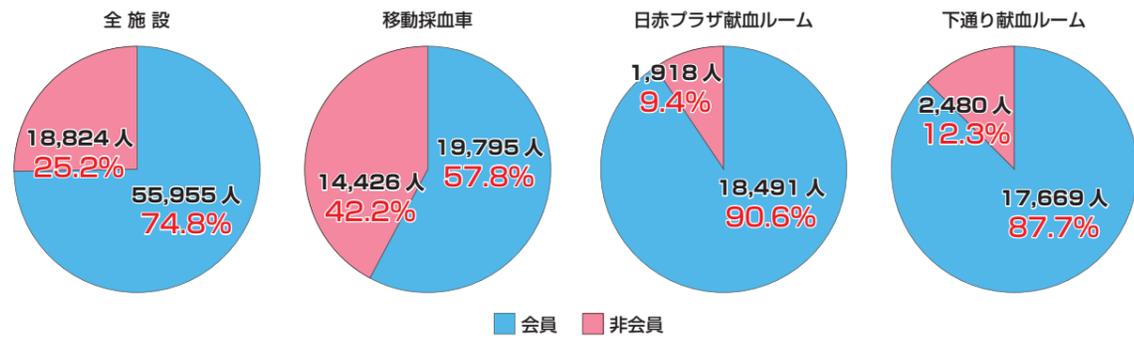
(令和 6 年 3 月 31 日現在)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
新規登録者数	1,082	4,528	4,012	8,202	7,039	6,455
総会員数	9,451	13,979	17,981	26,177	33,029	39,480

(人)

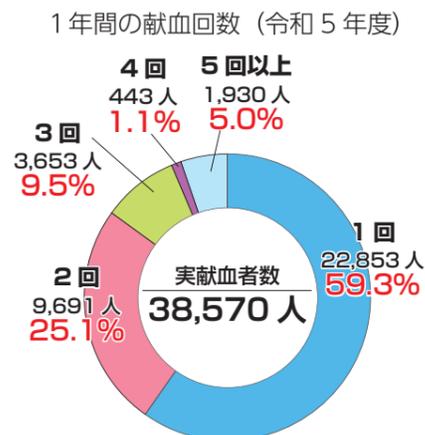
※平成 30 年 10 月 29 日に旧複数回献血クラブ会員 (8,429 人) がラブラッド会員へ移行
※主登録センターが熊本となっている人数

献血者に占める会員比率



一年間に複数回の献血をお願いします

県内の献血者の内、約 60%の方が、1年に1回のみのご協力で留まっています。輸血用の血液は年間を通して必要とされています。定期的な献血のご協力を、是非お願いします。



検査成績のお知らせ

献血にご協力いただいた方々への感謝の気持ちとして、7項目の生化学検査成績及び8項目の血球計数検査成績をお知らせしています。これらの検査成績はいずれも通知を希望された方を対象とし、献血後2週間程度で親展(書簡の郵便)にてお知らせします。献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の会員は、血液検査結果が献血後2~5日程度で確認でき、平成17年4月1日以降の記録を確認することができます。生化学検査及び血球計数検査欄に記した標準値は、献血された方々の検査結果から算定したもので、正常はまた異常を表すものではありません(グリコアルブミンを除く)。また、献血受付時に、B型肝炎検査、C型肝炎検査、E型肝炎検査、梅毒検査、HTLV-1抗体検査の結果通知を希望された方には、異常を認めた場合、献血後1ヶ月以内に上記の通知とは別に親展(書簡の郵便)にてご通知します。

生化学検査

検査項目	説明
ALT (GPT)	肝臓に最も多く含まれる酵素です。肝細胞が破壊されると血液中に流れ出すので、急性肝炎で最も強く上昇し、慢性肝炎や脂肪肝(肥満)などでも上昇します。激しい運動の後に一過性の上昇がみられることがあります。
γ-GTP	肝・胆道・膵・腎などに多く含まれる酵素です。上昇する疾患は閉塞性黄疸、肝炎、アルコール性肝障害などです。病気がなくても長期飲酒者では上昇することが多く、1ヶ月くらい禁酒するとある程度正常化します。
総蛋白 TP	血清中には80種類以上の蛋白が含まれ、種々の機能を持ち、生命維持に大きな役割を果たします。その総量を総蛋白として測定しています。
アルブミン ALB	血清蛋白の50%以上を占めるアルブミンは、病気などで栄養が悪くなると減少するため、健康診断のスクリーニングとして大きな意味があります。
アルブミン対グロブリン比 A/G	血清蛋白はアルブミン(A)とグロブリン(G)に分けられ、その比率は健康な人では一定の範囲にありますが、病気によってはその比率が変化(主として減少)してきます。
コレステロール CHOL	血清脂質の一つで、一般に脂肪の多い食事を続けていると上昇します。また肝臓などで作られ、肝・胆道・腎・甲状腺の病気とその値が上下することがあります。血清コレステロールが多くなると動脈硬化を起こしやすいとされています。
グリコアルブミン GA	糖尿病の検査の一つです。過去約2週間の血糖値が低い状態が続いていると低下し、高い状態が続いていると上昇します。糖尿病では標準値より上昇します。標準値範囲内でも15.6%以上の場合は注意が必要です。

血球計数検査

検査項目	説明
赤血球数 (RBC)	赤血球は血液の主な細胞成分で、酸素を肺から各組織へ運ぶ働きを持っています。
ヘモグロビン濃度 (Hb)	血液の赤い色は赤血球に含まれるヘモグロビン(血色素)によるもので、赤血球の働きを中心としています。
ヘマトクリット値(Ht)	ヘマトクリット値は一定の血液量に対する赤血球の割合(容積)をパーセントで表したものです。
平均赤血球容積 (MCV)	赤血球1個の平均的容積、すなわち赤血球の大きさの指標となるもので、赤血球とヘマトクリット値から算出したものです。
平均赤血球ヘモグロビン量 (MCH)	赤血球1個に含まれるヘモグロビン量を平均的に表したもので、赤血球数とヘモグロビン濃度から算出したものです。
平均赤血球ヘモグロビン濃度 (MCHC)	赤血球の一定容積に対するヘモグロビン量の比をパーセントで表したもので、ヘモグロビン濃度とヘマトクリット値から算出したものです。
白血球数 (WBC)	白血球は細胞などを食し免疫情報を伝達し、さらに免疫能を発現して生体防御にかかわっています。細菌感染症があると一般に白血球数は増加しますが、ウイルス感染症の場合はかえって減少することもあります。
血小板数(PLT)	血小板は出血を止めるための重要な働きを持ち、この値が極端に減少すると出血を起こしやすくなります。

検査結果の確認は Web 会員サービス

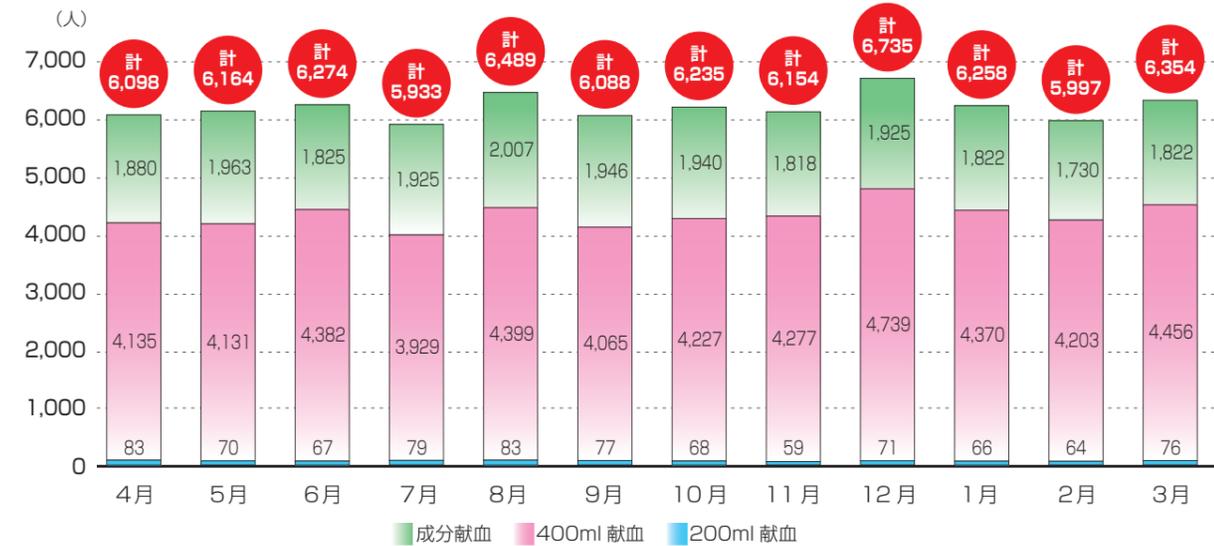
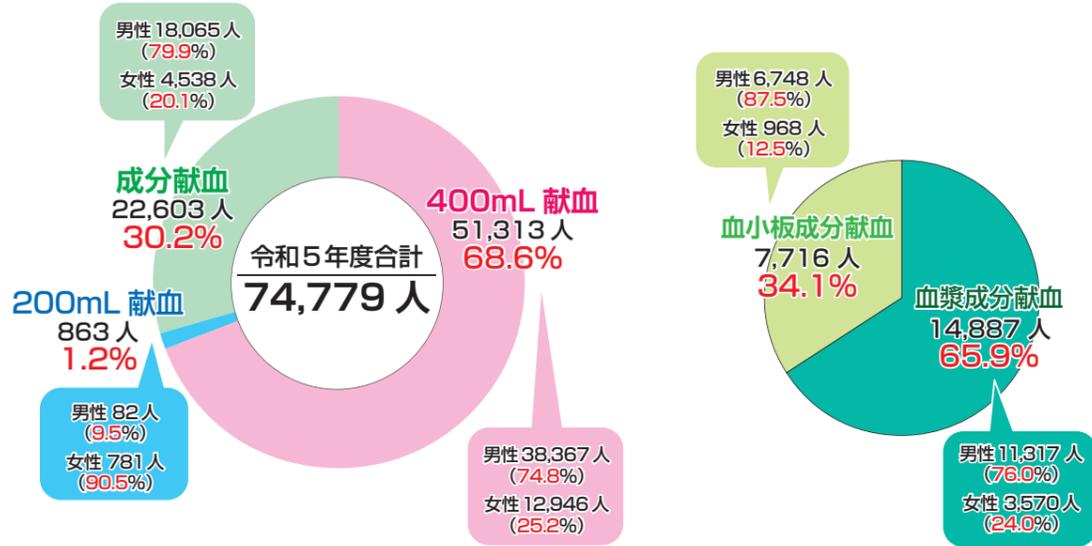
「ラブラッド」が便利です!



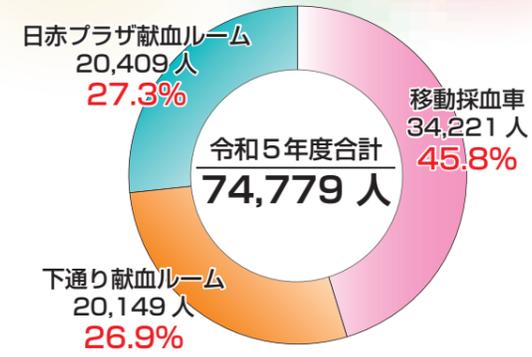
献血状況

令和5年度は、長く続いた新型コロナウイルスの蔓延が、ようやく落ち着きを見せる中、夏場の台風6号の停滞による影響や、医療機関への急激な供給量の増加などにより、大きく血液の在庫が減少する時期もありましたが、74,779人（前年度比102.8%）と多くの県民の皆さまに献血のご協力をいただき、輸血を必要とする患者さんへ不足することなく血液をお届けすることができました。施設別の献血者数は、移動採血車34,221人（前年度比103.9%）、下通り献血ルーム20,149人（同98.5%）、日赤プラザ献血ルーム20,409人（同105.3%）となりました。

① 献血種類別献血状況

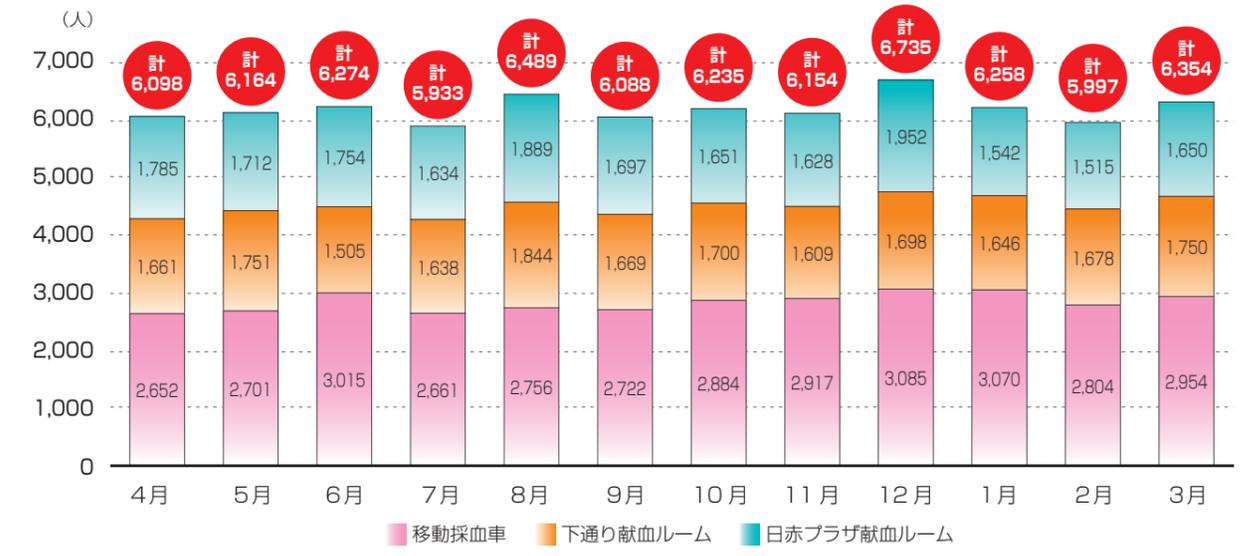


② 受入施設別献血状況



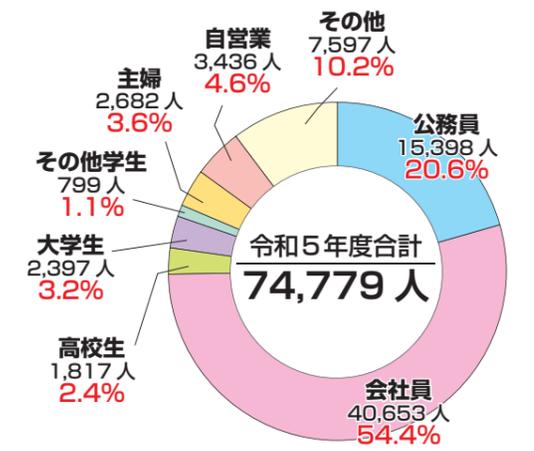
施設年間稼働数

移動採血車	658台
下通り献血ルーム	316日
日赤プラザ献血ルーム	298日



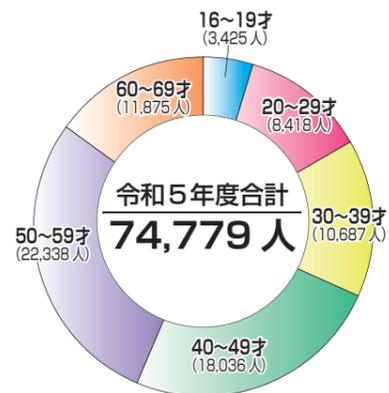
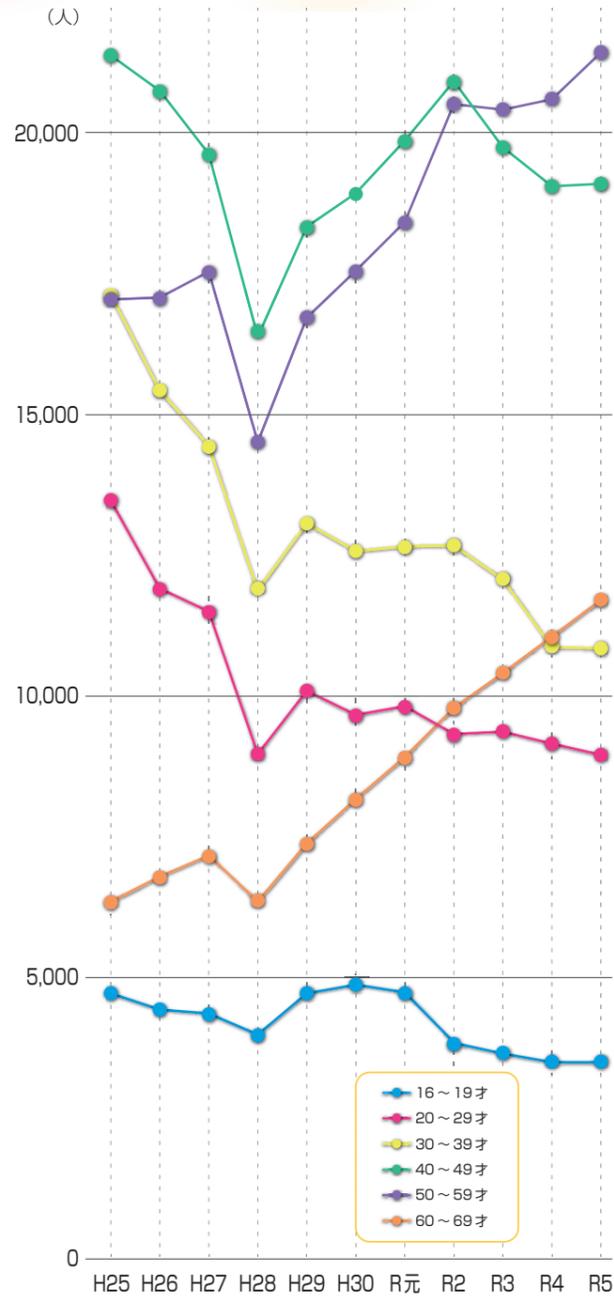
③ 職業別献血状況

	公務員	会社員	高校生	大学生	その他学生	主婦	自営業	その他	合計
令和元年度	14,675	38,738	2,390	3,041	1,358	2,990	3,773	7,434	74,399
令和2年度	15,790	41,173	2,340	2,303	847	3,112	3,813	7,691	77,069
令和3年度	15,868	39,430	2,021	2,627	968	2,903	3,575	7,670	75,062
令和4年度	14,997	38,743	1,871	2,739	895	2,719	3,352	7,433	72,749
令和5年度	15,398	40,653	1,817	2,397	799	2,682	3,436	7,597	74,779



④ 年齢別献血者数の推移

年度	16～19才	20～29才	30～39才	40～49才	50～64才	合計	
S60	47,621	56,292	44,719	26,530	16,913	192,075	
S61	42,820	52,344	45,200	25,968	16,855	183,187	
S62	40,293	47,236	42,799	26,235	17,939	174,502	
S63	41,467	46,108	42,044	27,785	18,919	176,323	
H1	41,422	42,588	39,918	28,989	19,602	172,519	
H2	40,889	40,207	37,548	28,854	19,176	166,674	
H3	42,232	44,185	39,798	31,222	20,758	178,195	
H4	38,398	42,727	36,524	30,380	20,296	168,325	
H5	32,235	38,736	32,338	27,695	18,288	149,292	
H6	27,215	38,407	30,508	26,806	17,444	140,380	
H7	22,836	34,501	27,038	24,633	15,034	124,042	
H8	22,023	35,743	26,645	25,921	15,242	125,574	
H9	21,413	37,449	27,946	26,964	16,971	130,743	
H10	20,066	38,510	28,342	27,278	18,651	132,847	
年度	16～19才	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	合計
H11	18,401	36,709	28,063	26,840	15,666	4,638	130,317
H12	16,443	33,610	26,697	25,502	15,888	4,921	123,061
H13	13,430	31,248	25,857	24,533	15,613	5,090	115,771
H14	11,161	27,302	23,988	22,428	14,924	4,741	104,544
H15	7,623	23,487	21,945	20,386	14,345	4,417	92,203
H16	6,385	22,267	21,571	20,263	14,137	4,250	88,873
H17	6,401	22,116	22,162	20,417	14,896	4,374	90,366
H18	5,024	19,379	20,889	19,066	13,903	3,507	81,768
H19	4,238	18,804	20,532	19,119	14,165	3,707	80,565
H20	3,657	18,458	21,522	19,821	15,078	4,393	82,929
H21	3,534	17,420	21,470	20,691	16,445	5,213	84,773
H22	3,601	16,146	20,926	21,312	16,492	5,730	84,207
H23	4,104	15,060	19,943	21,419	16,657	5,948	83,131
H24	4,470	14,449	18,888	21,697	16,957	6,129	82,590
H25	4,729	13,478	17,122	21,380	17,049	6,348	80,106
H26	4,437	11,910	15,430	20,743	17,072	6,789	76,381
H27	4,364	11,495	14,438	19,619	17,531	7,163	74,610
H28	3,983	8,978	11,881	16,382	14,516	6,351	62,091
H29	4,727	10,098	13,068	18,334	16,728	7,389	70,344
H30	4,880	9,662	12,581	18,928	17,547	8,167	71,765
R元	4,733	9,819	12,650	19,860	18,419	8,918	74,399
R2	3,838	9,326	12,683	20,917	20,512	9,793	77,069
R3	3,676	9,358	11,752	19,374	20,467	10,435	75,062
R4	3,461	8,816	10,833	17,892	20,842	10,905	72,749
R5	3,425	8,418	10,687	18,036	22,338	11,875	74,779

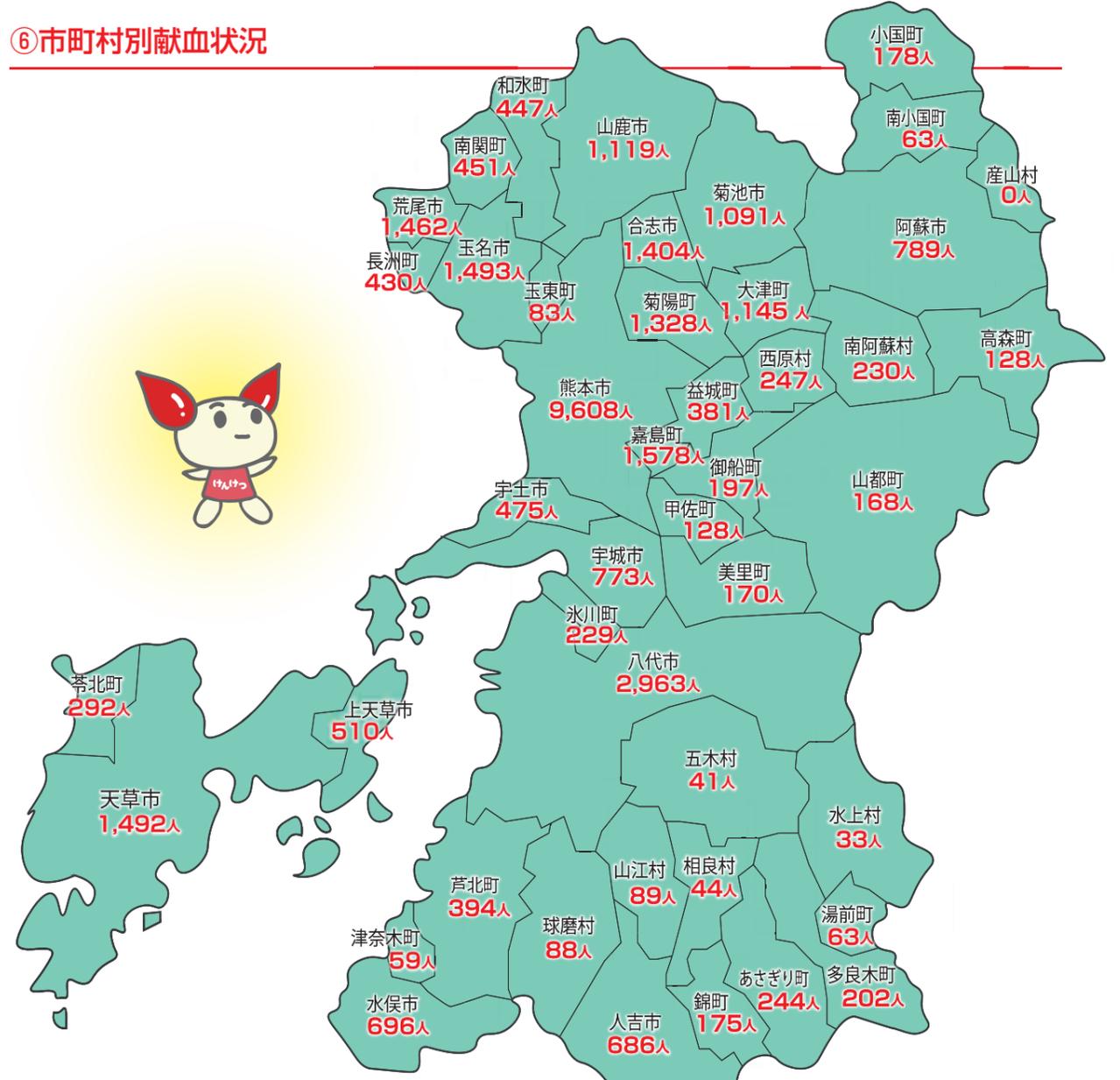


※平成11年度から献血可能年齢69歳まで拡大(平成10年度まで64歳)。

⑤ 初回献血者数の推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
初回献血者数	5,520人	5,462人	4,688人	4,298人	4,124人	4,161人
初回献血者割合	7.7%	7.3%	6.1%	5.7%	5.7%	5.6%
献血者数	71,765人	74,399人	77,069人	75,062人	72,749人	74,779人

⑥ 市町村別献血状況



	200mL 献血数	400mL 献血数	成分献血数	献血者数
市 町 村	0	33,866	0	33,866
運転免許センター	0	355	0	355
日赤プラザ献血ルーム	210	7,999	12,200	20,409
下通り献血ルームCOCOSA	653	9,093	10,403	20,149
計	863	51,313	22,603	74,779



令和5年度 献血功労団体表彰

日本赤十字社では、継続的に献血のご協力をいただいた団体、もしくは献血の推進活動にご功労のあった団体へ感謝の意を表し表彰を行っています。



厚生労働大臣表彰状	菊池市
厚生労働大臣感謝状	学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学
	多良木町地域婦人会連絡協議会
	ライオンズクラブ国際協会337-E地区4Z 合志ライオンズクラブ
	医療法人坂梨会 阿蘇温泉病院
	公益社団法人 山鹿法人会
株式会社京写 九州工場	
日本赤十字社感謝状 (金色有功章受賞後10年ごと)	株式会社永井製作所 八代工場
金色有功章 (活動年数20年以上)	熊本県自動車整備工業協同組合八代支部青年部
銀色有功章 (活動年数15年以上)	公益社団法人 八代地方法人会
	医療法人 悠紀会病院
日本赤十字社 熊本県支部長感謝状(金枠) (活動年数10年以上)	熊本県自動車整備工業協同組合人吉球磨支部青年部
	人吉警察署
	熊本日日新聞玉名店主会
	八代ホワイトパレス
日本赤十字社 熊本県支部長感謝状(銀枠) (活動年数5年以上)	熊本市立総合ビジネス専門学校
	一般社団法人熊本県産業資源循環協会宇城支部
	社会福祉法人 翠光園
	熊本県自動車整備工業協同組合水俣芦北支部青年部

供給状況

血液センターでは、いつでも医療機関の要請に応じられるように、24時間365日体制で輸血用血液製剤の供給を行っています。

また、製剤別の過不足や、血液型別の片寄り、更には稀な血液型の患者さんの需要に対応するために、全国にある血液センターのネットワークを最大限に活用し、効率的、かつ迅速な供給に努めています。

令和5年度は、赤血球製剤102,680単位(前年度比100.3%)、血漿製剤28,907単位(同91.4%)、血小板製剤103,275単位(同100.6%)を供給しました。赤血球製剤と血小板製剤は昨年度並みでしたが、血漿製剤は大きく減少しました。



厳密な検査に合格し製造された貴重な血液製剤は、厳格な品質管理のもとに、製剤の種類毎に最も適した条件下で保管しています。

血液製剤別供給状況の推移

(200mL単位換算)

年度	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	総供給数
R1 (H31)	99,359	31,953	97,550	228,862
R2	102,636	29,869	109,330	241,835
R3	99,548	27,822	100,870	228,240
R4	102,353	31,630	102,710	236,693
R5	102,680	28,907	103,275	234,862

赤血球製剤

赤血球は、肺で取り込まれた酸素を全身に運ぶ役割があります。出血や血液疾患などが原因で赤血球が不足する状態、またはその機能低下による酸素欠乏のある場合に使用されます。(2023年3月15日供給分から有効期間が採血後21日から28日に変更)

- 保存温度: 2~6℃
- 有効期間: 採血後28日間



血漿製剤

複数の血液凝固因子の欠乏による出血ないし出血傾向のある場合に使用されます。

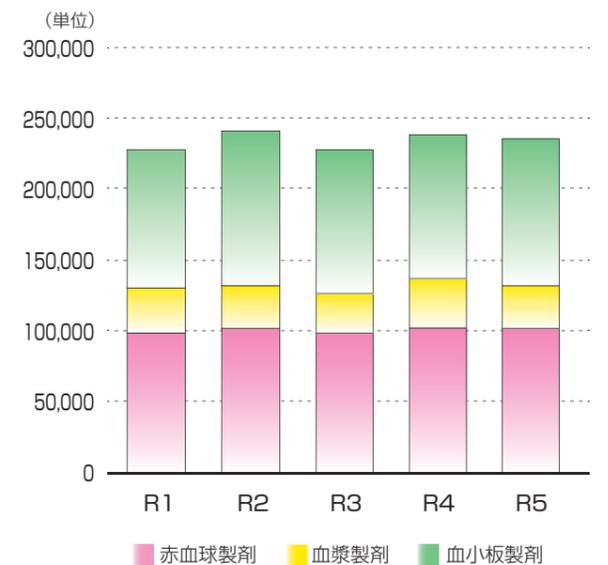
- 保存温度: -20℃以下
- 有効期間: 採血後1年間



血小板製剤

血小板の減少、またはその機能低下による出血ないし出血傾向のある場合に使用されます。

- 保存温度: 20~24℃
- 有効期間: 採血後4日間



医薬情報活動

安全で適正な輸血療法が行えるよう、医療機関に対して輸血に関する最新の情報をお知らせする窓口として、学術情報・供給課があります。

ここでは、医療機関からの問い合わせに対応したり、万一、輸血副作用が発生した場合には、原因を調査してフィードバックを行い、医療機関が必要とする資料・文献の提供や、安全な輸血をめざして説明会を実施しています。

令和5年度の主な活動は、輸血用血液製剤関連資料（9種類）の配布や、副作用報告を20件、医療機関からの苦情処理対応を16件、輸血用血液製剤の取り扱い等についての説明会を7回実施しました。

また、11月には熊本県内の適正かつ安全な輸血療法の更なる向上を図るため、県主催の第14回熊本県合同輸血療法委員会講演会を開催し、73施設、148名の参加がありました。

その他、自己血輸血などにおける医療機関への技術協力の窓口としての活動も行っています。手術前に患者さん本人の血液を貯血し、手術時に使用するという自己血輸血では、1医療機関6名の患者さんの血液を調製・保管しました。



講演会（11月開催）の様子



熊本県学生献血推進協議会

県内9大学から集まる大学生ボランティアによる組織です。各大学内で実施される献血の推進活動をはじめとして、献血イベントや九州各県の学生ボランティアとの交流活動など、若年層への献血普及啓発を中心に展開しています。

街頭イベント呼びかけ



クリスマス献血キャンペーン

協議会加盟大学

- 熊本大学
- 熊本県立大学
- 熊本学園大学
- 崇城大学
- 東海大学（熊本キャンパス）
- 尚綱大学・尚綱大学短期大学部（九品寺キャンパス）
- 九州ルーテル学院大学
- 九州看護福祉大学
- 熊本保健科学大学



尚綱大学・九品寺キャンパス 3年 佐藤 実紗さん（さとう みさ）

学内献血をきっかけに長期にわたる、複数回の献血に協力してもらえよう活動していきたいと思っています。

献血推進・広報活動

① 献血セミナー

県と血液センターでは、若い世代を中心に献血について関心を持っていただくため、高校・専門学校等を中心に講師を派遣し、「献血セミナー」を実施しています。令和5年度は、高校・専門学校合わせて20校で開催し、計4,347名の皆さまに献血の必要性や重要性を学んでいただきました。



献血セミナーの様子

② 献血イベント

県民の皆さまに献血のことをもっとよく知っていただくために、熊本県学生献血推進協議会と協力するなど、イベントを実施しています。

「愛の血液助け合い運動」 (7月1日～31日)

学生ボランティアによる献血呼び掛け
7月8日（土）下通アーケード

全国学生クリスマス献血キャンペーン (12月1日～25日)

学生ボランティアによる献血呼び掛け
12月17日（日）
下通アーケード、イオンモール熊本（嘉島町）

「はたちの献血」キャンペーン (1月1日～2月29日)

キャンペーンCM放送、献血者へ記念品を配付
1月8日（月）
下通アーケード、イオンモール熊本（嘉島町）

赤十字フェスタ 2023 in イオンモール熊本

支部、病院、血液センター、健康管理センター合同のイベント。血液センターのコーナーでは、模擬血液展示、ラブラッド登録ブース、ガチャガチャ、救護服への着せ替え、車両展示、移動採血車による献血実施などを展開
11月12日（日）イオンモール熊本（嘉島町）



▲「はたちの献血」
「赤十字フェスタ」▶



③ 献血キャンペーン

学生・10～20代初めて献血キャンペーン (4月1日～3月31日)

学生（高校生、大学生、専門学生）または、10～20代で初めて献血にご協力いただいた方に「3in1充電ケーブル」プレゼント。



One More 400 献血キャンペーン (10月1日～3月31日)

年度内に複数回400mL献血にご協力いただいた方へ「お菓子の詰め合わせ」プレゼント。



④ 血液センター情報誌「KUBIRU」

献血活動やキャンペーン情報、献血者からいただいたメッセージなどをご紹介します。（年4回発行）



ありがとうのメッセージ

私は帝王切開で赤ちゃんを出産しました。
 その時に出血量が多く、輸血を必要としました。
 後で聞いた話では、1リットルもの量を輸血したそうです。
 輸血が出来なければ、出産する事も私の身体も危なかったと
 感じています。
 この事から出来るだけ多くの献血者を必要としています。
 少しでも献血して頂けると多くの人を助けることができます。
 献血にご協力をお願いします。

(熊本在住)

父が輸血をさせて頂いていますが、
 それまでは輸血など自分たちには
 全く関係ない事だと思っていました。
 しかし今では輸血なしに
 父は生きていないと思います。
 本人はもとより家族がどれだけ
 支えられたでしょうか。
 いつも感謝しております。
 一人でも多くの方に協力して頂き、
 一人でも多くの方を救えるよう
 どうぞお力をお貸し下さい。

(熊本在住)

輸血で父がお世話になりました。
 輸血したとたん、
 顔色はもちろんよくなり、
 食欲や活気がでて、
 「こんなにすごいものなんだ」と
 びっくりしたことを思い出します。

(熊本在住)



骨髄バンク事業

骨髄バンク事業は、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律（平成24年法律第90号）」に基づく骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業者として、日本骨髄バンクが主体となり、日本赤十字社及び地方自治体の協力により行われている公的事業です。

赤血球にA・O・B・ABの血液型があるように、白血球にも型（HLA型）があります。その組み合わせには数万通りあり、骨髄または末梢血幹細胞移植のためには、HLA-A、B、C、DRの4座の適合度を確認する必要があります。兄弟姉妹間では4分の1の確率で一致しますが、非血縁者間では、数百から数万分の1の確率でしか一致しません。そのため、広く一般からドナーを募る骨髄バンクが必要となります。日本で骨髄移植や末梢血幹細胞移植を必要としている患者さんは、毎年少なくとも2,000人を数え、一人でも多くのドナー登録が不可欠です。ドナー登録は、献血ルームや献血バス、一部の保健所で実施していません。申込書の記入と2mLの採血で、所要時間は15分程度です。

なお、令和5年度の本県におけるドナー登録状況につきましては、新規ドナー登録者が1,425人（前年度比152.5%）、登録者総数は10,420人（令和6年3月末現在）になりました。登録対象年齢人口千人当たりにおける登録者数は15.29人と、全国平均10.25人を上回っています。



骨髄提供の流れ

① ドナー登録

ドナー登録は腕の静脈から約2mLを採血し、HLA型（白血球の型）を調べます。



② 適合したら

患者さんのHLA型と適合した場合は、骨髄・末梢血幹細胞の提供について詳しい説明があります。



③ 最終同意

立会人同席のもとドナー候補者の最終的な提供意思が確認されます。（家族の同意も必要となります）



④ 骨髄提供の場合

通常3泊4日の入院をすることになります。腸骨（腰の骨）から注射器で骨髄液を採取されます。



⑤ 末梢血幹細胞の場合

白血球を増やす薬を3～4日注射し、通常1泊2日の入院をします。腕に針を刺し、血液中の造血幹細胞だけを取り出されます。



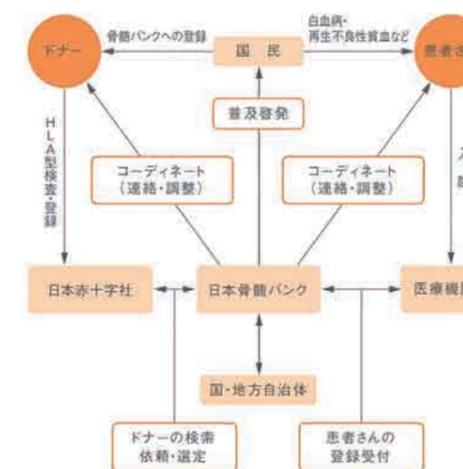
⑥ 提供後、数日内で退院*

（※採取方法によって異なります）

採取後は数日内で退院し、日常生活に戻ることができます。退院後は、健康診断を行うなど、回復するまでフォローアップがあります。



骨髄バンク事業の体系図▼



■ 骨髄バンクに関するお問い合わせ

日本骨髄バンク

ドナーバンク
 TEL 03-5280-1789

（資料請求・問い合わせ専用）平日9時～17時30分
 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-19 廣瀬第2ビル7F

<https://www.jmdp.or.jp/>

日本骨髄バンク 検索





目赤プラザ 献血ルーム

熊本市東区长嶺南2丁目1-1 (血液センター1F)

TEL 096-384-6727

献血受付時間

全血	9:00~12:00 13:00~16:30
成分	9:00~12:00 13:00~16:00



- 駐車場完備
- 日・祝日定休日
- ※土曜日が祝日の場合は開所



下通り献血ルーム COCOSA

熊本市中央区下通1丁目3-8 (下通NSビル5F)

TEL 096-325-9218

献血受付時間

全血	10:00~13:00 14:00~17:30
成分	10:00~13:00 14:00~17:00



- 金曜定休日
- ※金曜日が祝日の場合は開所



献血ルーム
ではこんな
サービスも
充実して
います!



テレビを見ながら
リラックス



Wi-Fi
Wi-Fi完備!



ドリンクや
お菓子も充実



マンガ本も
そろってます!



移動採血車

移動採血車の日程は、熊本日日新聞(電子版)及び下記ホームページに掲載しております。

詳細については各保健所、各市町村の担当課、血液センターにお問合せください。

検査目的の献血は輸血を必要とする患者さんの安全のためにお断りしています。

- エイズ検査は保健所へ… ● 無料、匿名で受けられます。 ● 検査日などは最寄りの保健所へお尋ね下さい。

熊本県赤十字血液センター

〒861-8039 熊本市東区长嶺南2丁目1-1 TEL 096-384-6000(代)

E-mail ▶ kmmt-somu@qc.bbc.jrc.or.jp

ホームページ ▶ <https://www.bs.jrc.or.jp/bc9/kumamoto/>



最新NEWSや
献血バスの
運行予定など
情報が満載です

熊本県赤十字血液センター